

### 3. 『鳥飼地域のまちづくりについて』

#### 令和3年第4回12月議会一般質問 議事録

##### 【1回目】質問

3つ目に、「鳥飼地域のまちづくりについて」で御座います。

本件は、毎回取り上げておりますが、先日、第5回目の鳥飼まちづくりグランドデザイン策定委員会が開催されました。改めて、策定委員会の進捗状況と、答申までのスケジュールについてお聞かせ下さい。以上、3点で御座います。

##### 【1回目】答弁

「グランドデザイン策定の進捗状況と今後のスケジュール」についてのご質問にお答えいたします。

去る11月17日に第5回目の鳥飼まちづくりグランドデザイン策定委員会を開催し、「少子高齢化」「にぎわい」をテーマに、現状と課題、将来を見据えた今後の対策の方向性について、議論いただきました。

少子高齢化に関しては、少子化による学校規模の適正化の問題、高齢化については見守り体制の強化、高齢者の活躍の場の必要性など、根拠と現状をご説明するとともに、地域コミュニティの活性化も視野に、これらの課題を同時に解決できるかもしれない方策の例についてお示ししております。

その内容は、学校施設と他の公共施設を複合化することで、学校小規模化に伴う様々な影響を高齢者等が補完するかたちで活躍できる環境を整え、双方の課題を少しでも解決する、また、多様な世代が交流することですべての世代の居場所づくりが可能となりえないか、などの検討イメージを提案し、子どもや教職員等への影響を踏まえた小規模校化解消に向けた取組や魅力ある教育・学校づくりの必要性などについて、ご意見を頂いたところでございます。

また、にぎわいについては、鳥飼地域の各エリアの特徴等を踏まえた取組イメージの事例を参考にお示しし、淀川や公園、農地といった地域資源を活用した豊かなライフスタイルの実現などのご意見を頂いたところでございます。

なお、次回は12月21日に第6回目を予定しており、これを含めまして、年度内に3回開催する予定としております。

##### 【2回目】質問

続きまして、3つ目の鳥飼地域のまちづくりについて、に移ります。

策定委員会については、残り3回で答申を向かえる状況ですが、深掘りした議論が展開され、市民の意見が反映された内容となるのか危惧されるところです。

答申に向け、具体的な全体像や方向性を示し、議論する必要があると考えますが、具体的にどう進めて行くのか？また、進め方についても、策定委員会メンバーと共有しておくことが重要と考えますが、お考えをお聞かせ下さい。

### 3. 『鳥飼地域のまちづくりについて』

#### 【2回目】答弁

第6回目の策定委員会では、これまでにいただいたご意見を踏まえ、それぞれのテーマについてのとりまとめの方向性をお示しし、第7回、第8回目の2回で、具体的な取組や施策等について整理し、策定委員会としての総括をお願いしたいと考えております。

策定委員の皆様に対しても、次回以降ご議論いただく具体的な内容等について、事務局で整理し、次第改めてご説明させていただき、ご理解いただきたいと考えております。

#### 【3回目】質問

是非、次回には具体案をお示し下さい。また、中長期的な事案は答申後においても検討が必要であり、現在の専任部隊を組織として存続させるべきと私は考えます。また、庁内の体制のみならず、エリアマネジメントの観点から、地域と一体となって課題解決に取り組むべく、まちづくり協議会を設立するなどの仕組み作りが必要と考えますが、本市の見解をお聞かせ下さい。

#### 【3回目】答弁

グランドデザインに位置づける施策等については、その実施のために、今後も継続して議論が必要となるものも想定されますが、今後改訂を予定する都市計画マスタープランと整合を図ることも不可欠であり、鳥飼グランドデザインの策定後におけるフォローアップも含めた庁内体制について、引き続き検討を行ってまいりたいと考えております。

また、議員ご指摘のとおり、まちづくりには、住民や事業所等の連携・協働が大変重要であると認識しており、地域にとって効果的な仕組みについても、関係課とも議論してまいりたいと考えております。

#### 【4回目】質問

是非、庁内体制の存続と仕組み作りをお願い致します。

私は、兼ねてより提言しています様に、鳥飼地域の活性化・魅力化に向けて、大きな鍵となるのは、「教育の魅力化」と「交通利便性の向上」であると考えています。

この教育の魅力化については、先日の策定委員会において、学校の小規模化の解消について議論され、高齢者の進展も踏まえた学校を核とした地域コミュニティの醸成について、考えが示されました。

これについては、先日の「総合教育会議」においても、小規模校化への解消や魅力ある教育環境作りについて、意見が出されており、教育長からも、策定委員会での議論を踏まえながら、小規模校化解消に向けて取り組んで行く旨の考えが示されたと認識しております。

これらを踏まえ、教育委員会として、鳥飼地域の今後の学校の在り方について、どう考えているのか？見解をお聞かせ下さい。

### 3. 『鳥飼地域のまちづくりについて』

#### 【4回目】答弁

鳥飼地域の児童生徒数は減少傾向にあり、複数の小学校で多くの学年が単学級になるなど、小規模校化が進んでおります。また、今後学校で小規模校化が進みますと、中学校での単学級化や1学級あたりの児童数が一桁になることなどから、教育活動に大きな影響が出てくると考えられます。

鳥飼まちづくりグランドデザイン策定委員会や総合教育会議では、学校規模の適正化を検討のうえ、地域のコミュニティの場としても活用できるような学校づくりを求める意見などが出されました。

これを踏まえまして、教育委員会としましては、集団での学習や生活をとおして子どもたちの力を育むという学校の意義を大切に、まずは、鳥飼地域の学校が、長期的にみて適切な学級・学年・学校規模となるよう、検討を重ねているところでございます。そのうえで、他の自治体の先進的な取り組みなど、様々な魅力ある学校の在り方を研究し、市長部局と連携して、未来の鳥飼地域の子どもたちの生きる力をしっかりと育める学校づくりを進めてまいりたいと考えております。

#### 【5回目】質問

学校を核とした地域コミュニティが果たす役割は、今後、益々重要となります。鳥飼地域における高齢化の進展を踏まえ、**「少子化」と「高齢化」**の合理的な解決を図ることが出来れば、地域で子供を育てる環境作りに繋がると考えます。是非、市長部局と一体となって、魅力ある教育環境作りをお願い致します。

次に、「交通利便性の向上」については、細かい交通手段に関するのではなく、行政と交通事業者との役割分担や、6月議会でも提言した交通結節点の強化など、まずは市としての方針を固めるべきと考えますが、見解をお聞かせ下さい。

#### 【5回目】答弁

交通利便性の向上を図るためには、議員ご指摘の通り、本市と交通事業者との役割分担を明確にし、それぞれが担うべき役割を強化するとともに、効果的に接続させることが重要となってまいります。また、地域内の移動だけに留まらない市域外との広域的な連携も必要となってまいります。

これらを踏まえつつ、鳥飼地域は水害リスクが非常に高いことが特徴となっており、公共交通ネットワーク、道路ネットワーク等は、防災の観点からも再構築をめざす必要があると考えています。

鳥飼地域は、パーソントリップ調査から域内交通も多いことが分かっております。

幹線道路と生活道路を分離して検討することが合理的であり、緊急時の避難行動に自動車利用が想定されることも踏まえ、公共交通だけでなく個人の自動車利用の充実などについても、一定の考慮が必要と考えております。

地域公共交通の充実は、鳥飼地域のみならず、摂津市全体として検討を進めるべき事項であり、少子化、高齢化、人口減少など将来の環境変化を十分考慮した上で、公共交通が担うべき対策と目標を明確にし、周辺地域の住民等とも連携しながら持続可能な形を構築してまいりたいと考えています。

### 3. 『鳥飼地域のまちづくりについて』

#### 【6回目】

是非、市全体としての方針を示した上で、具体策を検討すると共に、市民の方々の声をしっかりと聞いて頂き、実態に即した施策に反映頂けますよう、お願い致します。

この鳥飼地域のまちづくりにあたっては、安全・安心、すなわち、防災をベースとした取り組みを展開することになろうかと考えます。

6月議会において、「防災型道の駅」を私の方から提案させて頂きましたが、ほぼ同時期に、国交省では全国から道の駅について、「防災道の駅」として初めて39駅が選定され、広域的な防災拠点としての役割を果たすためのハード・ソフト両面の重点的な支援を行うこととなりました。

本市も、高台まちづくりの観点から、防災型道の駅を検討してはどうでしょうか？令和8年度に無償化となる鳥飼仁和寺大橋からのアクセスも考慮し、有事は防災拠点として、平時は、地域資源を活かした「にぎわいづくりの場」として、ここに交通結節点を設けることで、利便性向上も図れます。

是非、夢の実現に向け、色々なアイデアや発想を取り入れ、また、市民・企業、各種団体と連携・協働しながら、魅力ある鳥飼まちづくりに、鋭意取り組んで頂けますよう、要望と致します。

以上で質問を終わります。